

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの (さくらユニット)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	令和 1年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来でき、普段よりお互いに交流し、また、毎月合同にてミーティングを行い情報を共有することにより、協力できる体制づくりに努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族との関わりを大切に、毎月担当者からの近況報告並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会(開所祝・敬老会)は、運営推進会議と合同にて開催しており、外部との交流に努め、また、毎回多数のご家族の皆様に参加協力をいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットをもつホームは、双方の職員や入居者が時にはお隣さんとして、ある時は一つ屋根の下の仲間として日常的に交流をしながら、明るい声が響き合っている。入居者の現状から昨今は車を使った全員での外出は困難になっているが、「外出が難しいから初詣に行けない！」ではなく、ホーム内に初詣の雰囲気を作って味わってもらうことに重きを置き、職員のアイデアと工夫により見事な神社本殿、賽銭箱や万札のお賽銭、個々によって内容も異なるおみくじと、記録写真での確認であったが、まさに「おおやの神社」の光景となっていた。また、昨今の自然災害のもたらす被害は想像を超えるものがあり、熊本地震一つの教訓に、火災・自然災害を想定した訓練への取組や、非常時の持ち出しリストも食料や医療に関するもの(保険証・処方箋控えなど)、小銭やテレホンカードなど、細かに記し確保されている。入居者同士が寄り合う姿や職員を案ずる言葉など、入居者と職員の日常が伝わるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人のスタッフが増えたこともあり、改めて全体で理念に基づいたケアの提供ができるように確認している。	理念をホールや個々のロッカー内に掲示し、職員の意識づけとしながら、月の会議や日々のミーティングでケアを通じて振り返りをおこなっている。前回の外部評価を受けて、運営推進会議の中で地域へ向けて理念を啓発し、新たにホームの一員となった家族や職員にも紹介している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物や地域の傾聴ボランティアの方に訪問していただいたりや交流に努めている。	ホームがある上天草市はボランティア活動が盛んであり、地元の傾聴ボランティアの中には入居者の知り合いがおられたり、毎回話はずんでいいる。地域神宮の秋の大祭では、子ども神輿や獅子舞見学に馴染みの掛け声が飛び出し、隣接する商業施設での祭り見学などに参加しながら、地域の人々と交流を続けている。高校生の実習受け入れの継続や、年明けには地元小学校児童の福祉体験も予定されており、地域貢献に寄与している。	以前から入居者とともに、近隣へ配布していた広報誌が途絶えていることについて、職員は復活したいと考えており、情報発信の手立てとして是非再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校福祉科実習生やボランティアの受け入れ、運営推進会議の時などに話をする機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催と年2回、家族会を同時に行うことにより随時、意見交換ができるようにしている	2ヶ月毎の開催が定着しており、3、9月は家族会とタイアップしておこなわれている。通常の会議通りに進行し、参加家族にホームの現状や、身体拘束適正化委員会を通じ、良いケアが身体拘束や虐待防止につながることを啓発している。会議の冒頭には必ず前回会議の内容を議事録に沿って説明することで、流動性のある会議となっている。	会議を通じ、家族へ外部評価の説明やアンケートへの協力依頼をおこなっている。次回の会議では是非評価結果について話す時間をもったり、実習で訪れる地元高校関係者へ会議への参加を打診することも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や家族会への参加も促している	行政担当者が毎回運営推進会議に参加しており、家族会と合同で開催される回もあり、交流の機会ともなり、市の情報を得ながらホームの現状や取組を発信している。ホーム長が書類提出や運営上の問題について役所を訪れ、関係継続に努めている。介護認定調査への立ち合いにより、入居者の状況を詳しく伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の所在確認常に行い、夜間以外の施錠はしないようにし、自由に出入りができる。身体拘束に関する研修会も行い、スタッフ間の理解も高まっている。	2ヶ月毎の運営推進会議で身体拘束適正化委員会を設け、参加者や家族に向け、指針を通してホームの姿勢を示している。実例をもとに検討したり、スピーチロックについて、自身の言葉使いの振り返りや、改善への取組を発信している。夜間帯に使用するセンサーマットについては、家族に説明と同意が得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング時などに再確認を行い、日頃のケアが虐待に繋がらないか振り返った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、その内容をホーム内で発表することで理解を深める事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者で説明を行っている。一度自宅に持ち帰っていただき、疑問等随時説明を行っている。改定等の際は、家族会や面会時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者・スタッフ等とゆっくり話す機会を設け、また、家族会・運営推進会議を合同開催し、外部の方も含め意見交換できる場を設けている。	年2回の家族会は運営推進会議と合同で開催し、多数の参加が得られている。会議を通し、災害時の家族への協力依頼や、利用料変更に伴う説明等をおこない、ユニット毎に分かれて意見や要望の収集に努めている。職員は入居者との普段の会話の中に選択肢を投げかけるなど、応えやすい質問を工夫しながら、思いをくみ取りケアに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回開き、その後、各ユニットにてミーティングを開き、意見を聞く場を設け反映できるよう努めている。	全体ミーティングでの職員の声に本年度は、新たに休憩室が設置され、交替での休息が出来るようになる等意見が反映されている。さらに、各ユニットミーティングでは、入浴拒否の入居者対応について、意見を出し合うなどケアを中心として話し合いがおこなわれている。昨年11月末より2ヶ月ほどの間、人材不足による1ユニット体制を余儀なくされたホームだが、本年2月1日より2ユニットを再開できたことに感謝し、新たな気持ちでケアにあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら、見直しや整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修等案内は、ミーティングや回覧にて職員へ知らせ、必要な場合は勤務調整を行い参加してもらっている。法人内においてもミーティング時研修を行っている。資格取得研修時も勤務調整をおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しており、ブロック会での事業所訪問や交流会、研修会等へ参加し交流に努めている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の気持ちに耳を傾けながら、今までの暮らし方や経過を理解し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する負担などを十分に理解し、安心してホームに任せられるような信頼関係を築けるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に理解した上で必要とするサービスの説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、本人の意思を尊重した介護をこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告にて状態を伝え、また面会時にも随時状態の報告を行っている。面会時には一緒にお茶を飲みながら、ゆっくりできる環境づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や、家族の協力で外出などお願いしている。	ホーム周辺の環境(スーパーや協力医、商業施設など)を生活に取り入れ、近隣の人々との交流や知人との再会につないでいる。行事に応じた食支援も入居者に馴染みのものであり、5月の節句には毎年注文する鯉の生菓子が食卓に上っている。近くから面会に来られた家族を玄関先で見送る入居者や、カラオケ店への外出、自宅での畑作業をして帰ってこられる方など家族との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来されたり、食事時には声を掛け合ったり、利用者同士の交流みられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々訪問して頂く家族もあり、交流が続いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて検討し、できるだけ本人の思いに添えるようなケアの検討を行っている。	職員は入居者との日頃のやり取りや、月のケアカンファレンスで意向を把握するように努めている。表現困難な場合には、ホームで見られる表情や行動、家族の代弁により、本人本位に検討している。運営推進会議や家族会、普段の面会など家族と会話する機会は多く、忌憚のない意見を求めながらプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションの中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや経過記録、会話などのコミュニケーションの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画ができるようスタッフ間でカンファレンスを開き現状の把握を行っている。家族にも現状を説明し意見を聴くようにしている。	職員は月のミーティングでケアの状況を話し合い、入居者の現状を確認している。プランは入居者・家族の意向を優先して立案し、半年ごとや状況によってはその都度モニタリングをおこない、現状と擦り合わせながら、内容の継続や変更を検討している。プラン内容は家族にわかりやすく説明する様心掛け、内容に関する話し合いもおこなわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に加え、ひやりハットなどでスタッフの気づきなどを共有し、ミーティング時に全員で再確認を行い、再発防止などに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対応できるようケアの方針を考え、必要に応じ家族の協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや衣料品店への買い物などで地域資源の活用をしている。また、行きつけの理容店を利用されている入居者もあり、地域とのつながりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接医院が主なかかりつけ医となっている。24時間の緊急対応もあり、医療に関する相談もできる体制が整っている。	殆どの方が隣接する医療機関をかかりつけ医とし、2週間～3週間に一度の受診を支援している。24時間緊急時対応が可能であることは、家族や職員にも安心につながっている。専門医については、家族の対応を依頼し、結果を共有している。職員は日頃の関りや毎月の体重測定などにより、異常の早期発見や健康管理に努めており、気になることは医師や訪問看護師へ報告し指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックで体調の把握し、異常がみられる場合にはすぐに病院へ連絡できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との情報交換を行い、必要に応じてカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には主治医を含め家族と十分に話し合いを行い、スタッフ全員でケア方針を共有し、家族や本人の希望に添えるように努力している。	ホームは「入居者が長く元気で過ごしてもらいたい」の思いで日々のケアにあたっている。重度化・終末期支援については、入居時に書面での説明や意向を聞き取りし、状態変化が生じた場合、あらためて確認を行っている。研修については、その都度開催し、医師や家族と連携を図り、職員が不安なくその方らしい最終の支援ができる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡シートを作成し、急変時などに情報の共有ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて避難経路や災害時の避難手順の確認を行っている。また、非常食や水など準備し、災害に備えている。	年2回の消防署の協力のもと訓練を実施しており、今年度は6月と、12月に2回目を予定している。自然災害については、9月に大矢野庁舎まで避難する防災訓練を実施している。火災訓練は新職員を中心にを行う他、出火場所の変更、夜間想定、ユニット1名ずつの職員での対応など、工夫しながら実施している。持ち出し備品はリスト1、2にわけ細かに準備しており、リスト票は職員ロッカールームに掲示している。また、タオルやティッシュペーパー、新聞紙、ブルーシートなどは、ホーム車両に乗せ、有事に対応できるようにしている。	家族には自然災害発生時の協力を依頼しており、今後は避難訓練への参加を呼びかけ、意見や提案を受けることも良いと思われる。また、日々の安全チェックについては引き続き徹底されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は理解しやすい地元の方言だが、丁寧語であることに気を付け、敬う気持ちを込めた声掛けができるように心掛けている。	入居者への言葉使いは、わかりやすいよう方言を交えながらも、馴れ合いや失礼のないよう、敬いの気持ちを持って使用することを共有している。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、同姓の場合は下の名でも対応している。身だしなみについては、訪問カットの利用や衣類の選択も、希望を尊重しながらも、同じ衣服にならないように配慮している。職員の守秘義務については、契約時を含め、管理者による指導や会議の中でも周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を把握し、本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は特に日程は決めておらず、自由に過ごしてもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を確認しながら、その人にあった衣類選びを行っている。また、意思の決定が難しい方には職員がえらび、いつも同じような服にならないような配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢の入居者が多い為、準備や片づけが難しくなった。	各ユニットで献立や食材購入を行い、調理専任者を中心に作られている。以前に比べ、入居者が下ごしらえや片付け等をされる方が少なくなっているが、近隣スーパーへの買い物や味の評価など、出来る事で食べのかわりを支援している。職員は見守りや介助をしながら同じものを摂っており、天草の新鮮な刺身の提供は、特に好評のようである。また、食が進まない方へ「まだ残っとるね！」「こっちも美味しかよ！」など、入居者同士声を掛け合う和やかな光景も見られた。	職員は入居者と同じものを摂ることで思いを共有し、バランスの良い食事が職員の午後からの活力にも繋がっていると思われる。継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェックを行い、食事量の少なくなった方にはおやつなどで、本人の好まれるものを提供し補ったり、刻みやミキサーなどの形状の工夫を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導を行い、口腔ケアを促している。また体調不良などで洗面所へ行けない方は、居室でのうがいに対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用されている方でも排泄の訴えがある場合にはポータブルトイレやトイレ誘導などで排泄が自立できるように援助している。	日中はトイレでの排泄を基本に、紙パンツや布パンツ、パットの併用など、昼夜の使い分けや組み合わせを職員間で検討している。また、夜間のみポータブルトイレや病状からテーブル式オムツを使用される方など個々に応じた排泄支援に取り組んでいる。水分補給もお茶や乳酸飲料(ヤクルト)や、牛乳も苦手な方には、コーヒーを加えるなど、好みに応じて提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に牛乳の摂取を勧めたり、冷たいものが苦手な方には温めて提供するなど無理なく飲めるように工夫を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はなるべく希望の時間に入れるように調整している。また、入浴拒否が続かれる方には無理強いをせず、清拭や更衣などで対応し、気分よく入浴ができるよう援助している。	入浴については毎回楽しみにされている方や、「きついから今日は入らなくていい！」など、希望や要望を聞きながら週1～4回ほどの支援が行われている。拒否のある方には、足浴や清拭を職員が工夫し、清潔保持に努めている。入浴は1対1の時間であり、その方の話に耳を傾けながらゆっくりとした時間になるよう努めている。	今後も変わり湯や一人ひとりに応じた入浴の楽しみを把握し、支援されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	。夜間あまり眠れなかった方などには起床時間を遅らせるなどの対応を行い、体調に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をファイルし内容を確認している。また、処方時には薬剤師からの詳しい説明も聞く事ができ、質問にも応じてもらえる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや、近隣への散歩、室内では作業を好まれる方には新聞折り、洗濯物たたみ等の手伝い歌が好きな方にはカラオケなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で、自宅へ外泊される方や、家族とともに外食、カラオケなどこれまでの趣味を楽しまれている方もおり、ストレス解消や、気分転換になっている。	近隣の散歩や地域スーパーへの買い物、沿道に出たマラソン応援などは、地元の人々や知人と顔を合わせる機会であり、継続して取り組んでいる。また、ドライブに参加できる入居者には、地域神社への初詣など車での外出を支援している。身体状況から、初詣へ参加出来なかった方にも全員で、参拝ができる様、職員の特技を生かし、ホーム内に厚紙で神社を製作し、おみくじ、賽銭箱を準備している。家族の協力としては、外食や面会時に散歩を兼ねて、地域のスーパーに出かける方、定期的に得意なカラオケを楽しみに外出される方もおられる。	今後はバスを使っての外出や、海に沈む夕日を眺める機会ももってみたいと、思いを語っている。職員配置の面からも困難もあると思われるが、家族の協力も得ながら、まずは個別支援での対応など実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはお小遣いを持ってもらい、外出時などに自分の欲しい物を購入されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなく会話ができるよう公衆電話が設置しており、自由に使えるようにしてある。携帯電話を所持されている方もおり、好きな時間に連絡されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者書いてもらった作品や、行事などの写真の掲示や、季節に合わせた飾りつけなどを行っている。	明るいうリビングは食堂を兼ねており、外出やイベント時の写真を掲示したり、入居者と一緒に季節の飾りつけなどをおこなっている。採光の良さから日差しの調整や、夏場の暑さには十分配慮しながら温度管理を行っている。テーブル席の配置は身体状況や相性などを考慮しており、ソファも思い思いの時間を過ごせるよう工夫している。ホーム内は職員による掃除に加え、自分の出番として、掃きそうじなどに精を出される入居者もおられる。	写真の掲示については家族も楽しみにされており、今後は「〇月の外出支援の様子」など、タイトルを付けることでいつの外出なのかわかりやすいと思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒にテレビを観れる場所と、少し離れ少人数で過ごせる場所があり、気分に合わせて、過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使っていたものを持ってきてもらうようお願いしている。家族やお孫さんの写真飾り付けしており、新しいものに貼り替えて行かれるご家族もあり、安心して過ごせるようにしている。	入居後も安心して過ごせる居室となるよう、自分の物、これまで使っていたものなどの持ち込みを伝えている。広さにゆとりがることから、家具やテレビ、着慣れた衣類やお気に入りの帽子をはじめ、面会時にお孫さんなどの写真を定期的に張り替えられる家族もおられるようである。衣替えについては職員が中心に行い、不足などがあれば家族と連携しながら補充されている。また、携帯電話を持ち込まれ家族との会話を楽しまれる方もおられ、充電や夜間の管理については、安全面などからホームで対応している。	身体状況などから居室での時間が長くなされた方にも、職員は小まめに声かけし、他の入居者の声や雰囲気を感じてもらえるよう努めている。今後も家族の協力を得ながら、入居者にとって居心地の良い居室なるよう継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室など、利用者がよく使用される場所には分かりやすいように掲示し、事故防止のために環境に整備を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホーム おおやの (みどりユニット)		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	令和 1年11月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋造りで、事務所を中心に2ユニットの造りの施設になっており、入居者・スタッフが自由に行き来でき、普段よりお互いに交流し、また、毎月合同にてミーティングを行い情報を共有することにより、協力できる体制づくりに努めています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族との関わりを大切に、毎月担当者からの近況報告並びにホーム広報を送付しています。2回/年の家族会(開所祝・敬老会)は、運営推進会議と合同にて開催しており、外部との交流に努め、また、毎回多数のご家族の皆様に参加協力をいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践できるように心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの訪問や近所のお店を利用したりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、高校生の実習の受け入れや相談の受け入れも行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見交換を行い家族会などで報告している 家族の意見もその都度伺う		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や家族会に参加していただく		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やホーム内研修で行い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い実際に後見人を利用している方もおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し家族会や面会時も説明するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に限らず、いつでも意見交換ができるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時は必ずおこない、いつでも意見や提案ができるような環境にしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行いながら、見直しや整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修等案内は、ミーティングや回覧にて職員へ知らせ、必要な場合は勤務調整を行い参加してもらっている。法人内においてもミーティング時研修を行っている。資格取得研修時も勤務調整をおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しており、ブロック会での事業所訪問や交流会、研修会等へ参加し交流に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話しかけ関係作りができるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護負担を理解し、すぐに要望が聞けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困りごとを把握しサービス対応ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係が築けるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告や面会時など随時報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との面会や外出など協力をお願いしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係ができるようスタッフが間に入り関係の調整を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても交流を続けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやカンファレンスなどで検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などの中で把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や申し送り帳、ミーティングなどで現状把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスを行いサービス作成をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やヒヤリハットなどで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに対応できるよう取り組んでいる		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流ができるよう近所のお店の利用で、近隣の散歩時の挨拶などできるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとっており、すぐに対応できる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や相談事がすぐできるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換ができるよう関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、医療や家族との話し合いを行い方針の共有ができるよう支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会をおこなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。家族会時、家族へ協力をお願いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れず声かけや対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いを把握できるよう傾聴し働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制せず本人のペースに合わせたケアを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそった服装や環境を整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや形態を把握し、なるべく希望に添える食事を提供している準備、片付けを一緒に行う		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯ブラシの交換を定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用や夜間のみオムツ使用の方もいる 一人一人にあわせた排泄支援に取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い飲食の工夫や運動への働きかけに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制せず個々に添った入浴支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や体調に合わせて環境を整え安眠できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理のもと確認し薬剤師の指導も受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合わせて出来る事を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の外出はスタッフも行い家族の協力を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理だが本人で少額手持ちの方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に添った飾りつけなど入居者と一緒に作ったり飾ったりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように環境づくりを考えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物やなじみの物を使用できるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全に生活できるよう支援している		